



## 日本中性子科学会「功績賞」

池田 裕二郎 氏

理化学研究所 光工学研究センター

受賞テーマ：大強度パルス核破砕中性子源建設及び運転への指導的貢献

### 略歴：

1998年4月 日本原子力研究所 東海研究所 中性子科学研究センター 核破砕中性子工学研究室長

2001年4月 日本原子力研究所 東海研究所 中性子科学研究センター

中性子施設開発グループリーダー・次長

2007年4月 日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 物質・生命科学ディビジョン長

2010年4月 日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 副センター長

2012年4月 日本原子力研究開発機構 J-PARC センター センター長

2015年4月 日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 非常勤客員研究員

理化学研究所 特別研究顧問

2023年4月 日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 物質・生命科学ディビジョン

中性子源セクション 研究嘱託

理化学研究所 客員研究主管

### 授賞理由：

J-PARC パルス中性子源は、稼働中の米国オークリッジ国立研究所の SNS や英国のラザフォードアップルトン研究所の ISIS を上回るパルス強度を実現している。池田氏は、計画・設計の段階から建設、さらに稼働期において、強固なリーダーシップを発現し、幾つかの困難な条件（設計における優位性と独創性、施設耐久性への理解と実証、予算的かつ人的資源の欠如への対応など）を見事に克服し、国際的な協力体制も構築しつつ、世界最高性能のパルス中性子源を実現させた。その間、中性子源セクションリーダー、MLF ディビジョン長、J-PARC 副センター長、センター長を歴任し、多くの研究者、技術者を的確に指導かつ育成しつつ、巨大プロジェクトを見事に完遂させた。

さらに、センター長退任後は、理化学研究所に籍を置き、理研小型中性子源システム RANS の建設などに尽力するとともに、中性子源に関する革新的な設計検討など、今後の中性子科学の発展につながる中性子源の高度化に関する実績を構築しつつある。

上記のように、池田氏は J-PARC パルス中性子源の設計計画、建設、施設稼働開始、その後の安定

運転における継続的な重責を十二分に果たしつつ、中性子科学会の発展に対して極めて大きな功績をあげてきた。このような多大な貢献により世界最高性能のパルス中性子源を日本国内に実現できたと言っても過言ではない。よって、池田氏は功績賞を受賞するに値する。